

情報・学習編

水害ハザードマップ

この地図は、河川の排水能力を大きく超える激しい雨が降った場合に、浸水が発生する地域を示した地図です。地図には、浸水が予想される地域とその深さ、避難場所等を示しています。

また、最大規模の降雨が降った場合に、浸水が発生する地域とその深さがどの程度になるかシミュレーションした結果を表しています。

なお、想定し得る最大規模の降雨は、近隣の地域で観測された大雨は、同じ地域ではどこでも同じように降る可能性があるとの考え方にに基づき、日本を降雨特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において観測された最大の降雨量として設定されています。

浸水が想定される区域における避難行動及び浸水深の目安

20.0m以上	家屋が水没する恐れがある区域 最上階も浸水することが想定されることから、早期の立退き避難が必要		
10.0m~20.0m			
5.0m~10.0m	その他の浸水想定区域 床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが、浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でもよい		
3.0m~5.0m		4.0m未満	2階の軒下まで浸かる程度
1.0m~3.0m		3.0m未満	2階の床上まで浸かるおそれがある程度
0.5m~1.0m		2.0m未満	1階の軒下まで浸かる程度
0.3m~0.5m		1.5m未満	大人の「かた」まで浸かる程度
0.3m未満		1.0m未満	大人の「こし」まで浸かる程度
0.3m未満	0.5m未満	大人の「ひざ」まで浸かる程度	
浸水想定区域外		浸水想定区域内の住民が避難してくるため、避難の手助けを行う。	

避難の心得・家庭でできる簡易水防

1. 非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備品には限りがありますので、自らが十分な準備をすると安心です。両手の空くリュックサックに非常持ち出し品を準備しておきましょう。

- 携帯ラジオ □非常食 □水 □懐中電灯・電池 □衣類 □生活用品 □救急薬品 □雨具 □ヘルメット
- 現金 □貴重品

懐中電灯、携帯ラジオ＋予備乾電池、非常食



ロープ、ちり紙(ティッシュ、トイレトペーパー)、ドライシャンプー、ローソク・マッチ



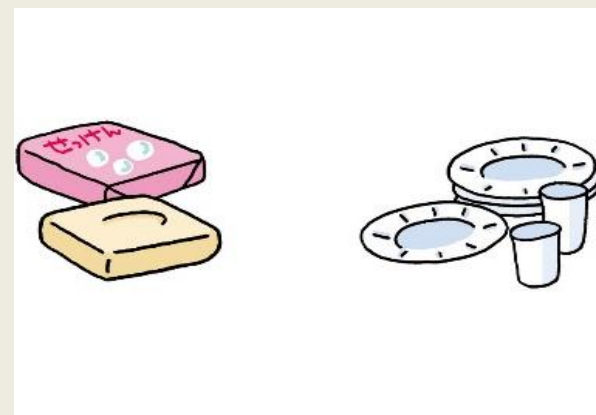
タオル、貴重品、救急セット(常備薬)、衣類・下着類



育児用品、ヘルメット、軍手、携帯ナイフ



石鹸、使い捨て食器



2. 非常持ち出し品を準備しておきましょう（ペット用）

優先順位1 常備品と飼い主やペットの情報

- 療法食、薬
- フード、水（少なくとも5日分）
- 予備の首輪、リード（伸びないもの）
- 食器
- ガムテープ（ケージの補修など多用途に使用可能）
- 飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預かり先などの情報
- ペットの写真
- ワクチン接種の状況、既往歴、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報

優先順位2 ペット用品

- ペットシート
- 排泄物の処理用具
- トイレ用品
- タオル、ブラシ
- おもちゃ
- 洗濯ネット（猫の場合）
- キャリーバックやケージなど



※ 詳しくは、環境省が発行している「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」をご覧ください。

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2506.html

3. 避難先・避難ルート・避難方法を確認しましょう

浸水に対して安全な避難先とルートを平時から家族や地域で確認しておきましょう。

4. 早めの避難を心がけましょう

降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難勧告を待たずに自主的に避難を開始してください。

5. ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態に合った時に危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心掛けましょう。

6. やむなく浸水の中を歩かなければいけない時の注意

■はん濫水は濁っていますので、水の中の障害物に注意しましょう。



■はん濫水は勢いが強いので、危険です。



家のまわりを点検・整備を



家の前の排水溝が詰まっていないかの確認や風で吹き飛ばされる物の撤去等が必要です。

家庭でできる簡易水防



浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。

大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて、水の侵入口となるところに並べます。

プランターをつなげて水の侵入口となるところに並べます。

長めの板と土嚢で臨時的止水板を作ります。

災害用伝言ダイヤルのかけかた

●忘れてイナイ（171）？災害伝言171と覚えてください●

★伝言を登録する

171にダイヤル

録音の場合【1】

自宅の電話番号を市外局番からダイヤルし、伝言をいれてください。

★伝言を聞く

171にダイヤル

再生の場合【2】

被災地の電話番号を市外局番からダイヤルし、伝言聞いてください。

情報の収集

大雨注意報・大雨警報

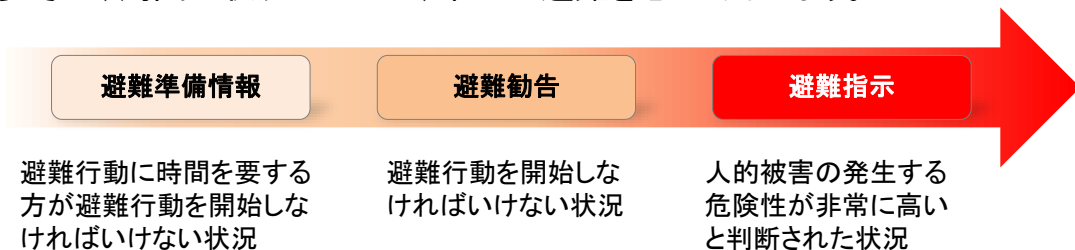
大雨による災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。より重大な災害が起こるおそれのあるときには警報が発表されます。

洪水注意報・洪水警報

大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。より重大な災害が起こるおそれのあるときには警報が発表されます。

避難情報

河川水位や気象状況などから判断して市が発表します。この避難勧告等の情報を参考に、周囲の状況に応じて、早めの避難を心がけましょう。

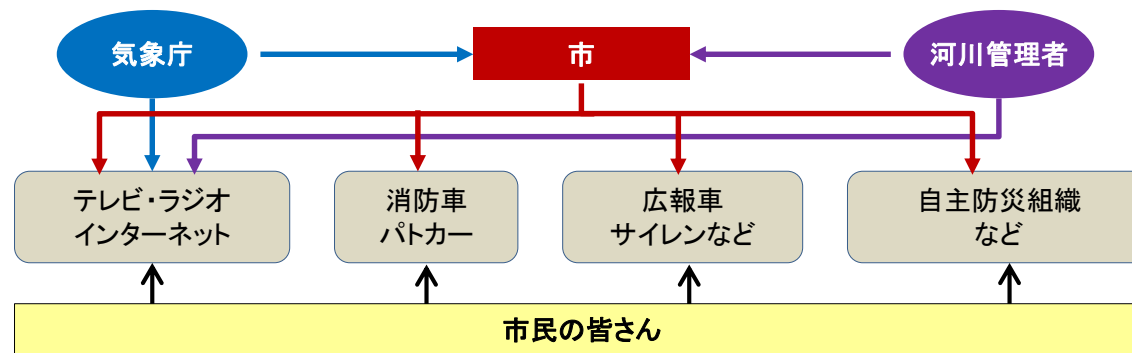


雨の強さと降り方

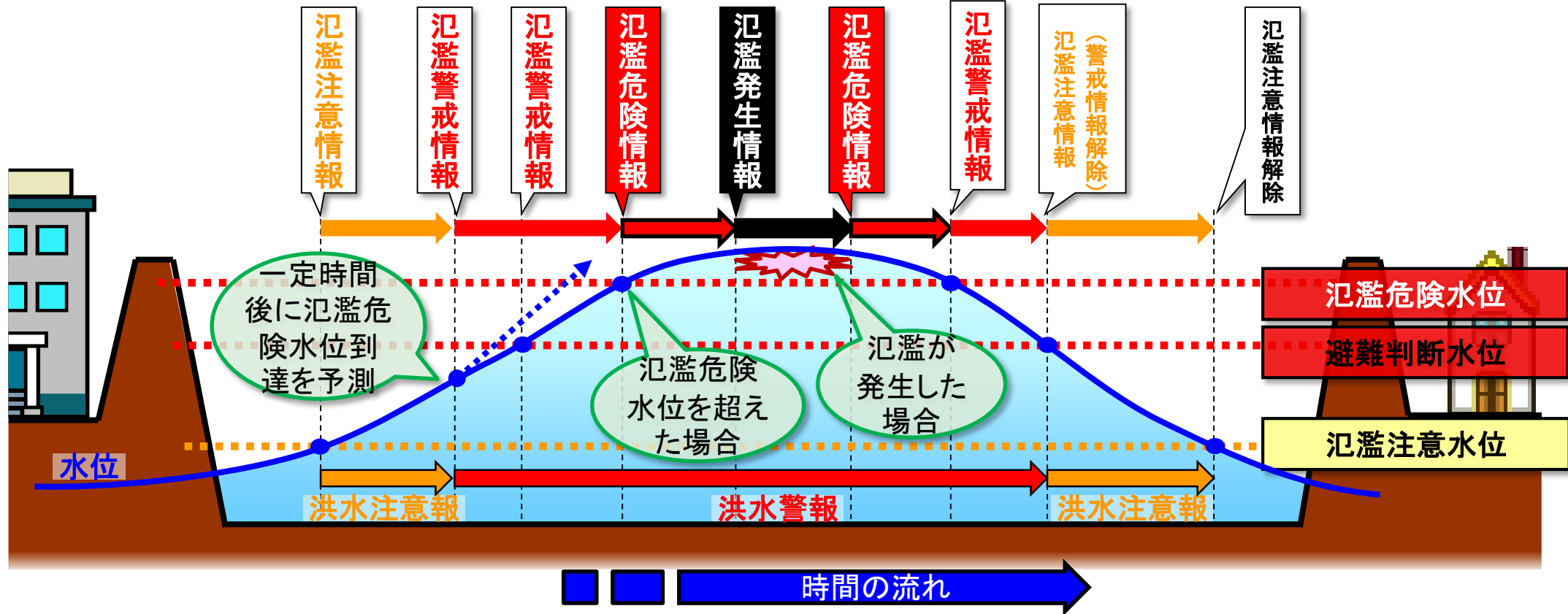
1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	ザーザーと降る雨。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
20～30mm	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小さな崖崩れが始まる。
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る雨。	山崩れ、崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。	マンホールから水が流出する。土石流が起こりやすい。多くの水害が発生する。
80mm～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

情報の伝わり方

洪水時には、自ら積極的に情報収集しましょう。



河川の水位



洪水予報の標題 (種類)	発表基準	求める行動の段階
氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階
氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階
氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階
氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生 (氾濫水の予報)	氾濫水への警戒を求める段階

問い合わせ先 芦別市総務課総務防災係
TEL 0124-22-2111 (内線211)